

七、秋元喬知と土木建築事業

秋元氏は上州総社植野城主越中守長朝の代より土木建築の技術に優れていました。勿論この道に秀でた家臣を擁していたことも考えられます。秋元但馬守喬知も都留郡賀美（上）郷の今井堰・梁尻工事・吉田松山用水・新倉掘貫工事（穴のくい違いで中止）など多くの堰の開さくを実施しました。

（三）秋元喬知の土木・建築事業

（1）土木事業（左表参照）

堰名	着工・落成年月日	備考
今井堰	延宝二年（一六七四）正月開始、四月一五日落成	喬知、上暮地・尾（小）沼の両村に命じ、天家阪上の新川堀割を開始する。今井半兵衛を普請奉行としたので堰名となる。
梁尻工事	延宝二年八月二日開始、同年三月一〇日落成	喬知、山中湖と忍ヶ湖の満流尾 まるとび を開削する、延長一二町余、工事を大明見・小明見・松山・上吉田・下吉田・新倉の各村に割当てる。 普請奉行は矢貝清太夫・今井半兵衛の両名。
吉田・松山用水工事	延宝六年（一六七八）三月開始	喬知、金山大滝下三日月川より諏訪明神の下を見渡し、上吉田・松山・下吉田・古屋敷・月光寺に至るまで新川を開さく。
新倉堀貫工事	元禄三年（一六九〇）正月より同一年八月二六日まで	喬知、新倉村の請願により、河口湖の水を取り入れて氾濫を防ぎ、新倉村の堰水とするため、船津村入口より嘯山を堀貫いて赤坂の出口まで、凡そ三〇町にわたる工事は一二年間を費したが穴の喰い違いから中止、普請奉行は大久保庄太夫・新美弾右衛門の両名。